

第 161 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2008 年 1 月 30 日(水) 17 時 30 分~19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 村上 伸也 氏

(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座・教授)

タイトル: 塩基性線維芽細胞増殖因子 (FGF-2) を用いた新規歯周組織再生療法の確立に向けて

我々の研究室では、塩基性線維芽細胞増殖因子 (basic fibroblast growth factor: bFGF; FGF-2) を歯周外科時に歯槽骨欠損部に局所投与することにより、歯周病により失われた歯周組織の再生を人為的に誘導・促進する、次世代の歯周組織再生療法の開発に取り組んできた。

まず、ビーグル犬およびカニクイザルに実験的に作製した歯槽骨欠損部に、0.1~0.4%のFGF-2を投与し、6週および8週後にFGF-2投与部位に歯周組織の再生が誘導されているか否かを検討した。その結果、FGF-2 投与側では、セメント質・歯槽骨の新生を伴う統計学的に有意な歯周組織の再生が誘導、促進されているのが観察された。さらに、歯肉上皮の下方増殖・骨性癒着・歯根吸収等の異常な治癒形態はFGF-2 投与部位には認められなかった。

臨床応用に向けて、2001 年より FGF-2 の歯周組織再生誘導効果並びに安全性の検討を目的とした全国 13 施設が参加した第 11 相臨床治験 (プラセボを含む用量反応同時対照による二重盲検試験) が行われた。その結果、ヒトの 2 壁性および 3 壁性歯槽骨欠損に対し、0.3% FGF-2 含有ハイドロキシプロピルセルロース (HPC) 製剤の局所投与がレントゲン写真上で統計学的に有意な歯槽骨新生を誘導し得ることが確認された。また、同治験期間中には安全性上問題になるような事例は認められなかった。

担当: 硬組織疾患制御再建学講座 王 宝 禮